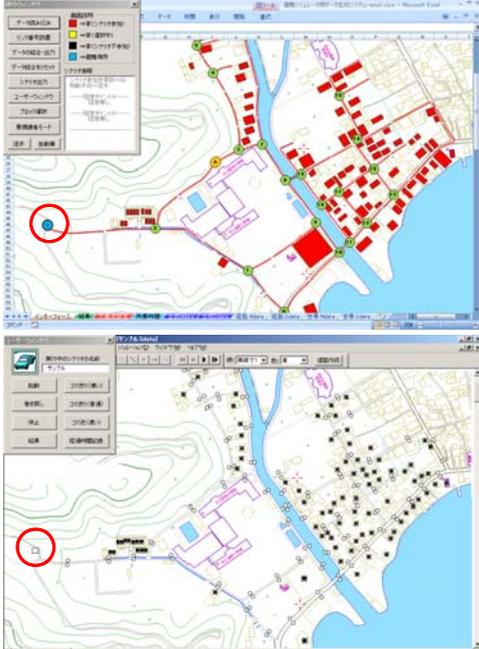


様式-3-2

成果報告書の概要

助成番号	研究名	研究者・所属
23第2号	水害避難シナリオ・シミュレータの開発と適用	愛媛大学・防災情報研究センター・准教授 二神 透
<p>愛媛県宇和海沿岸では、2010年チリ遠地津波、2011年東日本大震災時に津波避難勧告が出された。全体としての避難率は低く、今後、南海巨大トラフ地震が想定され、津波避難率を高めるとともに、要援護者を支援する体制の整備も喫緊の課題である。二神らは、ペトリネットを用いて津波による水害から避難するシステムを開発した。具体的には、避難場所や避難経路が使えない場合を想定して、新たな経路・避難場所を利用する場合、それらの様子をアニメーションで提示可能な、視覚に訴えるシステムである。開発したシステムを用いて、津波水害避難率が高い、西予市明浜町俵津の住民を対象として、DIG(Disaster Imagination Game)グループと、DIGに加えて、水害避難シナリオ・シミュレータを用いる2つのグループで、個々の避難や、要援護者の支援についてワークショップを行った。水害避難シナリオ・シミュレータを用いたグループでは、「津波災害において、人的被害の軽減に重要な役割を担うのは住民と行政のどちらかと思いませんか？」の項目において、シミュレータを用いたグループの方が、自助意識が高まる傾向が見られた。「地震による揺れを感じ、揺れが治まった後、あなたはどのような行動をしますか？」の項目では、シミュレータを用いた方が、要援護者の安否の確認意識が高まる傾向が見られた。現在、愛媛県は、南海トラフ巨大地震の津波被害想定を行っており、2013年6月に結果を公表する予定である。津波の河川遡上を踏まえた、アニメーションによる被害想定を行っているところである。今後、津波の浸水を阻害要因としてシステムに取り組み、水害避難シナリオ・シミュレータを活用しながら、継続的に住民とのワークショップを重ねていきたいと考えている。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>水害避難シナリオ・シミュレータの開発</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>DIGの様子</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>シミュレーション提示の様子</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">住民とのワークショップ風景</p>		